

1	木	アルファ米を食べよう(防災の日)
5	月	給食費引き落とし日(3歳児以上)
6	火	交通安全教室(5歳児)
7	水	絵本の読み聞かせ
9	金	よるまでお楽しみ会(5歳児)
14	水	リトミック
15	木	カレーの日
20	火	巡回相談
21	水	おべんとうデー
27	火	つくば登山(5歳児)
29	木	誕生会
30	金	避難訓練



暑い夏でした。  
夏が暑いのは当たり前だが、それにしても猛烈な暑さ。コロナも世界一の感染拡大。その上、豪雨被害。  
ヨーロッパでは熱波による渇水と山火事。環境破壊と気候変動、そして戦争。子ども達の未来が心配になる。  
そんな世界とは離れ  
龍ヶ崎では、子ども達が園内で捕れたカブト、クワガタのすもう大会。  
斜面いっぱいに、  
赤いユリのような花が咲き  
夕方には蝸が鳴いて、秋を告げていた。

「コロナウイルス感染症と共に」

・園内でコロナウイルス感染症陽性者数が増加したことで、保護者の皆様に、ご心配やご迷惑をお掛けしている中、励ましの言葉やご協力を頂き、本当にありがとうございます。今後も、コロナウイルスとの共存を考え、感染が落ち着いたタイミングで、異年齢交流等行っていきます。コロナウイルスには負けません。また、コロナ陽性となった方々は、身体と心の痛みを抱えている事と思います。ゆっくり養生して下さい。

今月の予定の中から...

- アルファ米を食べよう。(1日)  
・今年も、防災の日(9/1)にちなみ、アルファ米とけんちん汁、そして離乳食の子は、備蓄品のお粥を食べます。もしもの時に備えることの大切さを伝えたいですね。
- よるまでお楽しみ会(9日)  
・延期していた「よるまでお楽しみ会」を実施予定です。5歳児ぞうグループの子ども達が自分で考え、友だちと協力して1日を過ごします。
- リトミック(14日)  
・日常の中で音を感じ、身体で表現する楽しさをリトミックの中で感じている子ども達です。
- カレーの日(15日)  
・4・5歳児は、エプロン・三角巾の用意は子ども達が出来るように見守って下さいね。自分の事を自分でする習慣がつくまでは、大人が確認し、出来た時には褒めましょう!
- おべんとうデー(21日)  
・まだまだ暑い日が続きますね。お弁当の中身にも気をつけ、よく冷ました後に、保冷剤を入れて持たせてください。くれぐれも、要冷蔵のものは避けてください。命を残さず頂く事が大切です。
- つくば登山(27日)  
・5歳児が、自分の力で、友だちと一緒につくば山を登ります。「ガンバレ!」

●誕生会(29日)

・誕生児にとって特別な日。お祝いする気持ちを忘れないで欲しいと思います。  
☆今年の十五夜は「9月10日」  
・今年は夜空にたくさん星を見たいですね。  
※今月予定していた観劇は延期します。

「大人が出る幕?」

子どもの問題でしょう!!

幼稚園のお泊り会の夕食の片づけが終わった頃、A子ちゃんがB君に詰め寄って抗議していた。数人の子が集まり、不穏な雰囲気。知らんぷりをして、聞き耳を立てていると、席取りの際にAがBにはじき出されたことが発端だったようだ。「何で、私をのけ者にしたの?」と聞こえた。「そんなことしてないよ」と取り合わないB、周囲を囲んでいた子達と遊び始める。それでも、Aは執拗に追いかけて追求する。とうとうBが「わかった、悪かった、もうしない」と謝った。Aは涙ぐんで許した。男の子達にも笑顔が戻った。私と目が合った。「よくやった、話し合うことが大切だね」と言った。▼3人の弁護士によるシンポジウムで、一人の男性が、「自分の子がいじめにあつて、学校に訴えても、教育委員会に訴えても動かない、どうしたらいいか」と質問があった。すると弁護士の一人が「国会議員や県会議員に訴え、県や国の教育機関を動かした方がいい」と言い出した。私は、オイオイ、チョットマテヨ!と思った。子ども達の間で起こったことに、国や県、議員が関わる問題か?さらに、権力を引き出して「お上のおさた」を仰ぐやり方に「何、言ってるやがる」と性来の反骨心がムラムラと起こった。▼いじめは、子どもの世界では昔からあった。しかし、昔の子どもは開放的で、離合集散し、こちらのグループではじかれても、他のグルー



プに加わったり、いじめをする子がみんなから非難されたり、いじめられている子がいると、その子を守り、助ける子が現われた。ケンカをしても、翌日には何事もなかったように仲良く挨拶して、ケロッとしていた。しかし、今の子ども達は幼児期から、絡み合い、じゃれつき、取っ組みあつてケンカし、遊ぶ機会を奪われてしまった。大喧嘩して取っ組み合うことも、大声で言い合う事もない。子どもの集団が狭く、固定化され、その小さく閉鎖的な世界からはじき出されると、生きていけない。イジメがある、自分がイジメられている子を助けるどころか、自分がイジメられないように、無視するか、イジメに同調して身を守る陰湿な世界なのだ。片寄った偏差値でランク付けし、個性も特性も認めず、子ども達を狭い世界に押し込んでしまった結果が今のイジメだ。▼イジメが問題となると、当事者である子どもの姿がない。教育委員会や議員が中心になるが、何かおかしいと感じていた。子ども達とクラス・学校はどうなっているのか。子ども達が自分の問題として、自ら解決しない限りイジメはなくならない。イジメが人間の尊厳を傷つけ、死に至るまで追い込んでしまうことがあること、そして、一人ひとりがみんな尊重される豊かで尊い命であることを学ぶために、クラスで、学校で、一日中授業をつぶしてでも、徹底的に話し合い理解する貴重なチャンスである。授業より、人間として大切なことを学ぶチャンスである。大人が出てきて解決する問題ではない。もう一つ、子どもを開放し、自由に遊ぶ中で、多様な人やグループと関わり、人と関わり合うことが楽しいこと、自分も他人もかけがえのない存在であることを学んで欲しい。

